

桜川とその附近の史蹟を
さぐる関係略図(その1)



続日本紀弘仁八年冬十月常陸国新治郡災焼不動倉十三宇

穀九千九百九十石の記事に符合する。

6 新治廃寺跡 同じく協和町久地築台の原にある。いま畑地内榎の大木のある土壇を中心に四基の土壇がある。榎の大木のある土壇が金堂跡、左右が東西両塔跡、後方が講堂跡と見られ、薬師寺式の配置になっている。奈良朝前期様式の瓦や文字をへら書きにしたものが出土している。国府に国分寺があったように郡家に近く郡の寺があったわけはこの廃寺跡も新治郡家のそれである。

7 薬法寺、真壁郡大和村本木にある。真言宗豊山派の名刹で雨引の観音様の名で知られ坂東二十四の札所として栄えたところである。寺伝では用明天皇の御代中国の

梁という国の法輪独守居士が建てたもので用明天皇の勅

願寺となり又聖武天皇の皇后光明皇后も安産祈願のため

法華経を写して奉納したと伝えられ、それ以来皇室では

今日まで雨引観音のお守りをお受けしている。嵯峨天皇

も般若心経を写して奉納している。このとき久しく日照

が続いていたが、これにより俄かに大雨がやって来たの

でこの時から雨引止といふ山号になったといわれている。